

マルチクライアント方式調査

重症喘息における生物学的製剤についての調査

2018年11月

《 調査報告書 》

TESTA
MARKETING
INC.

テスト マーケティング 株式会社

〒103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町 2-14 パールビル 4F

Telephone 03-5642-3768 Facsimile 03-5642-3778

目 次

《サマリー編》

◎ 患者割合とブランドシェア	(1)
◎ 生物学的製剤の処方状況	(2)
◎ 重症喘息患者についての詳細(患者数ベース)	(3)
◎ 各生物学的製剤の評価	(4)
◎ ゾレアの評価	(5)
◎ ヌーカラの評価	(7)
◎ ファセンラの評価	(9)
◎ 生物学的製剤の処方意欲	(11)
◎ 生物学的製剤投与に至る経緯と、至らない理由	(12)
◎ 効果不十分な例とその後の対処法	(13)
◎ 生物学的製剤投与までの流れ	(14)
◎ 処方患者が伸び悩む背景	(15)
◎ 医師が求めるメーカーの取り組み	(16)
◎ 開発品の評価	(18)
◎ 将来の処方変化	(20)

《集計編》

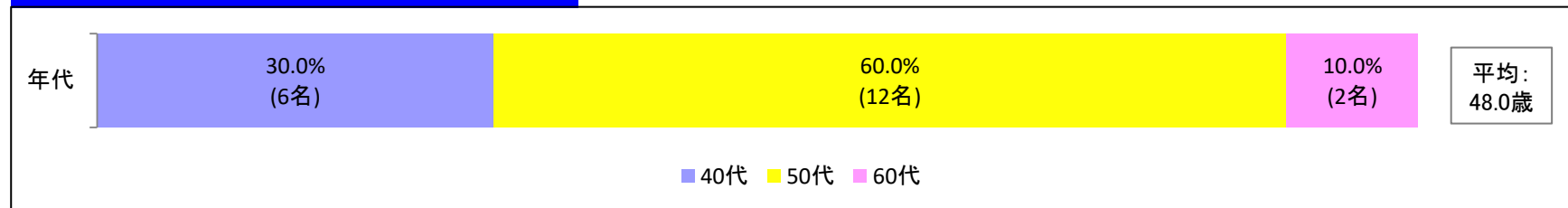
◎ 調査概要	(1)
◎ Q1. 1カ月当たりの受け持ち患者数と喘息患者数(全体)	(3)
◎ Q1. 1カ月当たりの平均受け持ち患者数と喘息患者数	(4)
◎ Q2. 重症患者についての詳細	(5)
◎ Q3. 重症患者(バイオ製剤非投与患者)に処方している製剤	(6)
◎ Q4. 経口ステロイドの用量別処方割合[維持療法で処方しているケース]	(7)
◎ Q4. 経口ステロイドの用量別処方割合[短期間(頓用)で処方しているケース]	(8)
◎ Q5. 生物学的製剤投与患者の来院経緯	(9)
◎ Q6. 生物学的製剤の処方状況	(10)
◎ Q6. ゾレアの処方人数/他剤から切り替えた人数とその理由	(11)
◎ Q6. ヌーカラの処方人数/他剤から切り替えた人数とその理由	(12)
◎ Q6. ファセンラの処方人数/他剤から切り替えた人数とその理由	(13)
◎ Q7. ゾレアの処方基準 [処方基準の有無]	(14)
◎ Q7. ゾレアの処方基準①	(15)
◎ Q7. ゾレアの処方基準②	(16)
◎ Q7. 重症喘息患者のうちゾレアの基準を満たす患者割合と処方に至る割合	(17)
◎ Q8. ヌーカラの処方基準 [処方基準の有無]	(18)
◎ Q8. ヌーカラの処方基準①	(19)
◎ Q8. ヌーカラの処方基準②	(20)
◎ Q8. 重症喘息患者のうちヌーカラの基準を満たす患者割合と処方に至る割合	(21)

◎ Q9. ファセンラの処方基準 [処方基準の有無]	(22)
◎ Q9. ファセンラの処方基準①	(23)
◎ Q9. ファセンラの処方基準②	(24)
◎ Q9. 重症喘息患者のうちファセンラの基準を満たす患者割合と処方に至る割合	(25)
◎ Q10. 医師と患者のどちらの理由で処方に至らないか/断る理由	(26)
◎ Q10. 理由ごとに断られた経験のある医師の人数と断られる割合	(27)
◎ Q10. 患者から断られる理由	(30)
◎ Q10. 医師が生物学的製剤を推奨しないケース	(31)
◎ Q11. 生物学的製剤使い分けのポイント [ゾレア]	(32)
◎ Q11. 生物学的製剤使い分けのポイント [ヌーカラ]	(33)
◎ Q11. 生物学的製剤使い分けのポイント [ファセンラ]	(34)
◎ Q12. 各生物学的製剤の評価 [ゾレア]	(35)
◎ Q12. 各生物学的製剤の評価 [ヌーカラ]	(36)
◎ Q12. 各生物学的製剤の評価 [ファセンラ]	(37)
◎ Q12. 各生物学的製剤の評価	(38)
◎ Q12. ゾレアの総合評価の理由	(39)
◎ Q12. ヌーカラの総合評価の理由	(40)
◎ Q12. ファセンラの総合評価の理由	(41)
◎ Q13. 効果不十分例の割合	(42)
◎ Q13. 効果不十分例の対処法	(44)
◎ Q14. 開発品の認知度	(45)
◎ Q15. 開発品の処方意欲	(47)
◎ Q15. 開発品の処方タイプ [デュピルマブ]	(48)
◎ Q15. 開発品の処方タイプ [テゼベルマブ]	(49)
◎ Q15. 開発品の処方タイプ [フェビピプラント]	(50)
◎ Q16. 生物学的製剤投与患者数の動向	(51)
◎ Q16. 開発品を含めた将来の処方動向	(52)
◎ Q17. 各社の情報提供活動/定期的な情報提供活動の有無	(56)
◎ Q17. 各社の情報提供活動	(60)
◎ Q17. 各社の情報提供活動/各社の総合評価	(61)
◎ Q18. 製薬企業がどのように努力をすれば投与対象患者が増えるか	(62)
◎ Q18. 項目別の重要とする理由	(64)

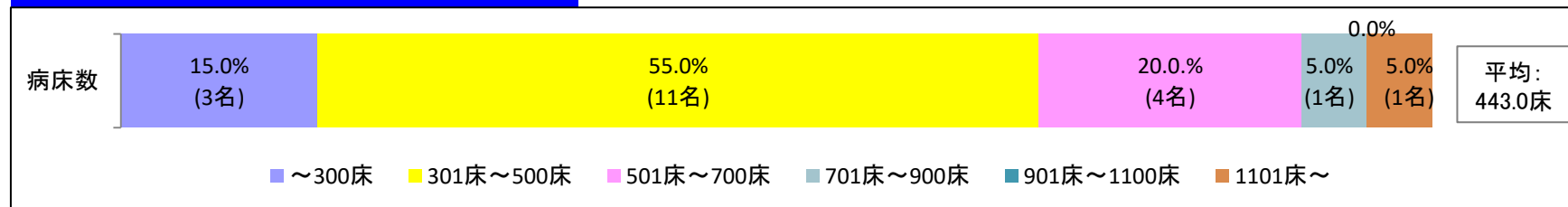
◎ 調査概要

テーマ	重症喘息患者における生物学的製剤についての調査
調査対象地域	1都3県(東京都、埼玉県、神奈川県、千葉県)
調査対象件数	20人
調査対象者	HPの呼吸器専門医師 ※直近1年で生物学的製剤の処方実績がある医師
調査方法	訪問面接インタビュー
調査時期	2018年9月10日～10月12日(インタビュー期間)

回答医師の年代 (N=20)

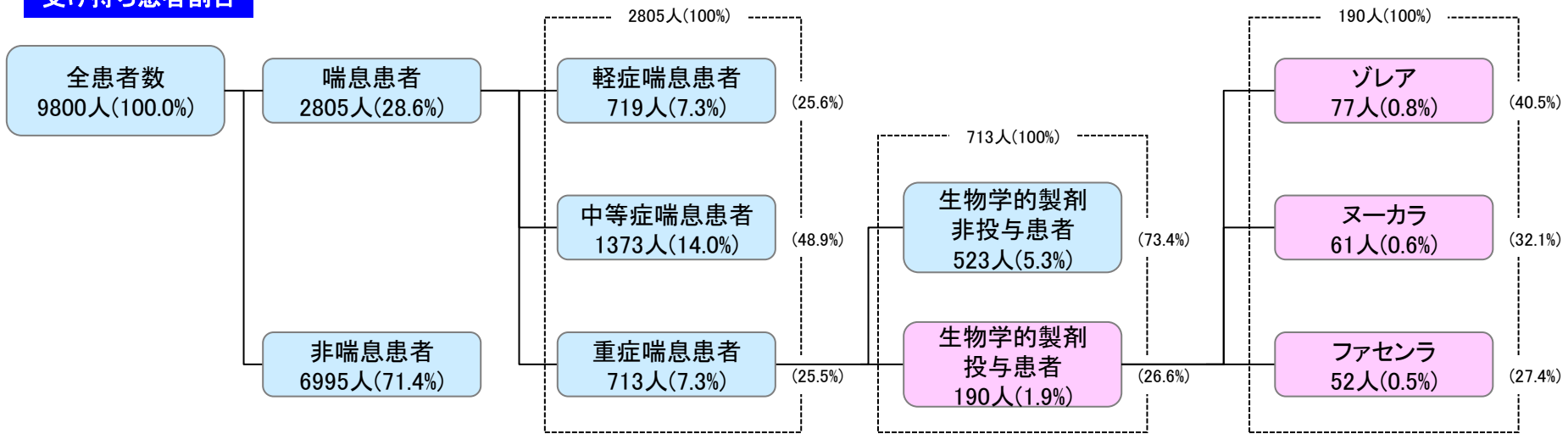


所属施設病床数 (N=20)

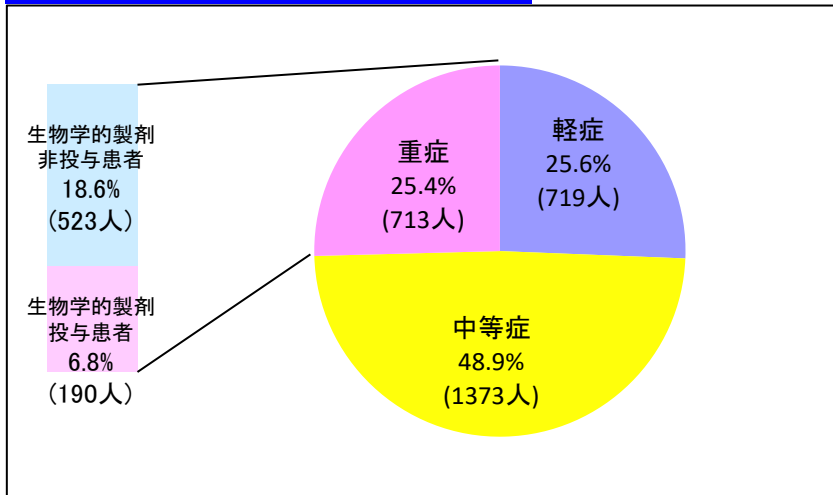


◎ 患者割合とブランドシェア

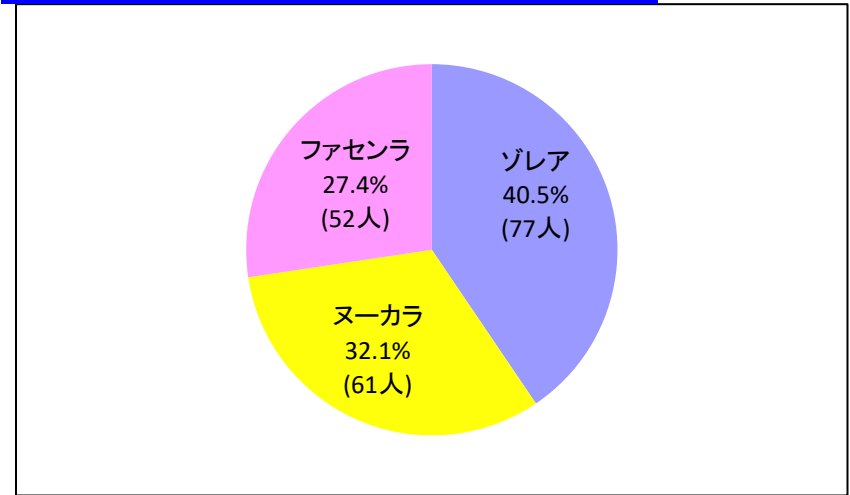
受け持ち患者割合



喘息患者における重症度割合(N=2805)

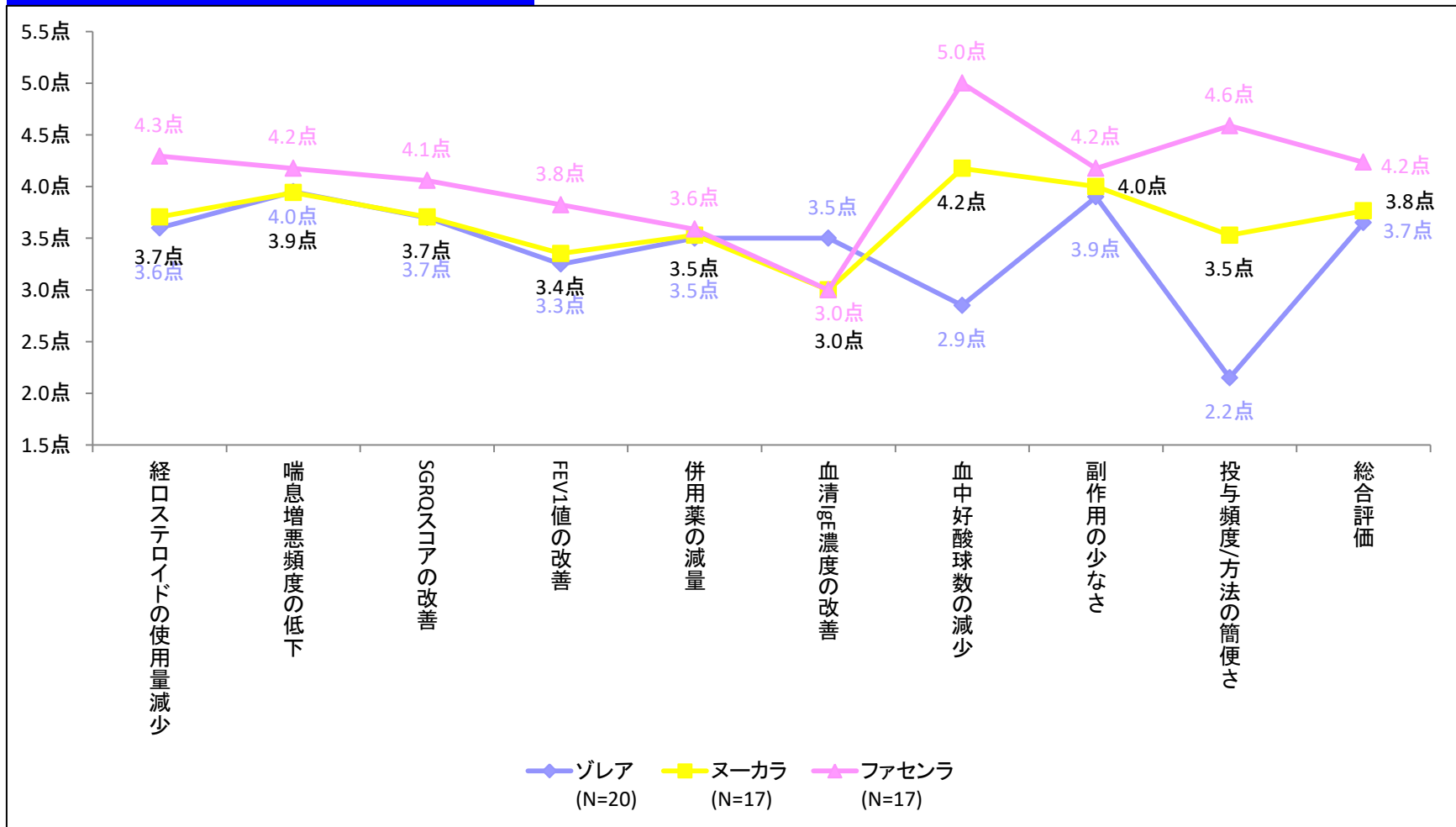


生物学的製剤投与患者のブランド別割合 (N=190)



◎ 各生物学的製剤の評価

製剤特徴に対する評価平均点



大変良い:5点⇔大変悪い:1点として算出

「重症喘息における生物学的製剤についての調査」

頒価：800,000円(消費税別)

発行日：2018年11月12日

発行人：金塚 進

発行所：テスト マーケティング株式会社

〒103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町2-14

TEL 03-5642-3768

FAX 03-5642-3778

日本語・外国語を問わず、いかなる形式でも本書の一部または全部の複製無断転載をお断り致します。